

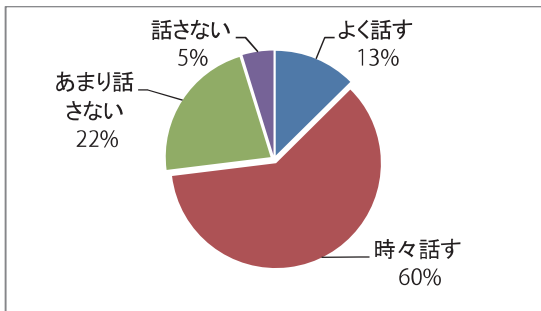
# 1 アンケートから見た道徳教育の現状及び課題

心の教育振興会議では、学習指導要領一部改正によって始まることになった「特別の教科 道徳」を中心とする道徳教育の充実に向けてのリーフレットや指導事例を作成するに当たり、道徳教育の現状及び課題等を把握するために、教職員（※1）、保護者（※2）にアンケートを実施しました。

※1 心の教育振興会議委員所属校の教職員（167人）  
 ※2 心の教育振興会議委員所属校抽出学級の保護者（437人）

## 【教職員に聞きました】

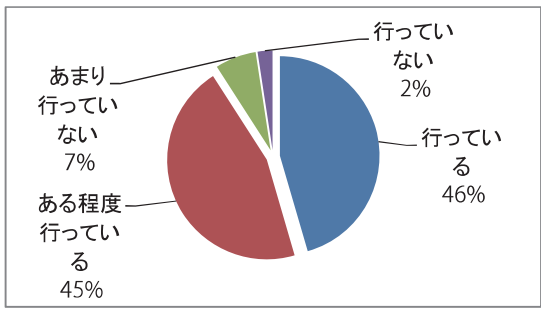
(1) 道徳の教科化について、教職員間で話をすることがありますか。



◆小学校は平成30年度、中学校は平成31年度から道徳が教科化されます。このことについて73%の教職員が「よく話す」、「時々話す」と答えています。先行研修の実施や、職員室で話題にしなが意識を高めていきましょう。

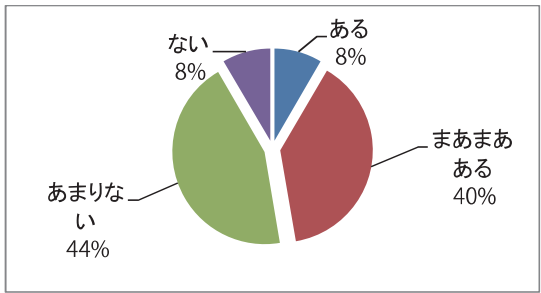


(2) 現在、「道徳の時間」の授業を計画的に行っていますか。



◆(2)では91%の教職員が授業を計画的に「行っている」、「ある程度行っている」と回答しています。これに対して(3)では「道徳の時間」の指導に「自信がある」、「まあまあある」と回答した教職員は48%にとどまっています。◆授業を計画的に行ってはいても、それに自信をもっていない傾向があることが分かります。

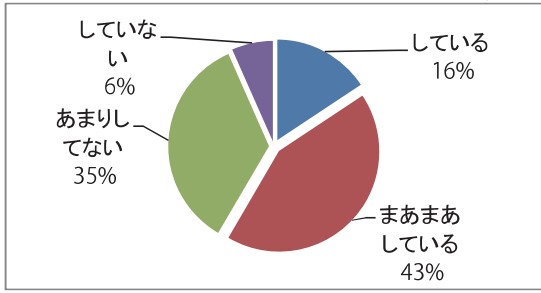
(3) 「道徳の時間」の指導に自信がありますか。



★授業づくりに、本冊子の「道徳の授業ヒント集【小学校編】、【中学校編】」を役立ててください。



(4) 「私たちの道徳」を活用していますか。



◆(4)では、59%の教職員が「私たちの道徳」を「活用している」、「まあまあ活用している」と回答しています。



★『「私たちの道徳」指導資料』を開いてみましょう。授業や家庭・地域において活用する際の解説や事例が紹介されています。

では、どんな場面で活用しているのでしょうか。

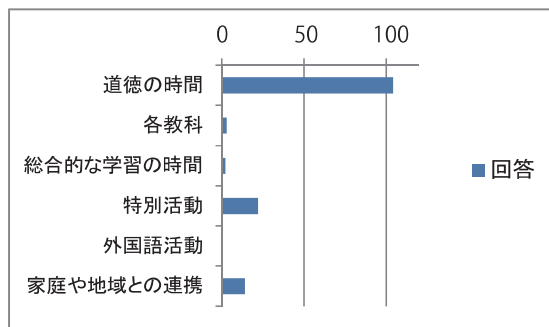


◆右のグラフは「私たちの道徳」の活用場面を示しています。これによると活用場面は、「道徳の時間」が圧倒的に多く、続いて特別活動となっています。  
◆「私たちの道徳」には、読み物資料のほかに

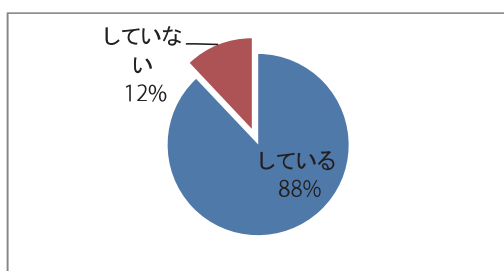
- 内容項目に関する資料
- 重点化内容のページ
- 情報モラルの特設ページ

などがあります。校内研修等で各教科等における活用を話題にしてみましょう。

<活用の場面>

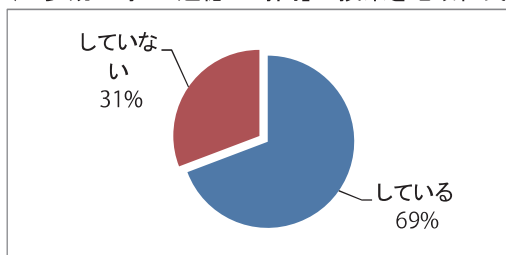


(5) 参観日等に「道徳の時間」の授業を保護者に公開していますか。



◆(5), (6)から、多くの学校が「道徳の時間」を保護者や地域住民に公開していることが分かります。  
◆「道徳の時間」の公開は、家庭や地域に、学校における道徳教育への理解を家庭や地域から得ることのできるチャンスです。

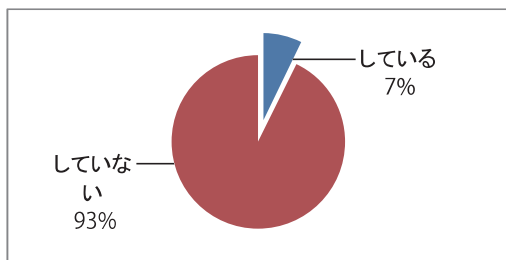
(6) 参観日等に「道徳の時間」の授業を地域住民に公開していますか。



Check!

★授業参観後に、講演会や協議の場を設けるなど、道徳教育を保護者や地域住民と共に考える場をつくることで、さらに相互の連携を図る方法も考えられます。

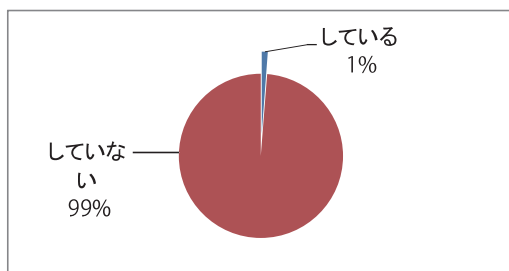
(7) 保護者が参加する「道徳の時間」の授業を行っていますか。



◆(5), (6)では多くの学校が「道徳の時間」を公開していることが分かりましたが、(7), (8)では、保護者や地域住民が参加する授業はあまり行われていないことが分かります。

それでは、実際に保護者や地域住民に参加や協力を得た授業にはどんなものがあるでしょうか。

(8) 地域住民が参加する「道徳の時間」の授業を行っていますか。

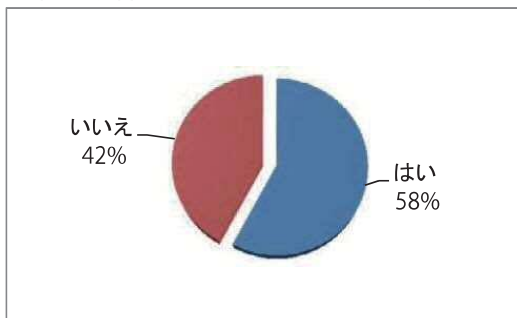


Check!

- 事前、事後アンケートや児童生徒への手紙等に協力してもらう。
- 授業を共に受ける形で参加してもらう。
- 児童生徒と対話したり、話し合いに加わったりしてもらう。
- 終末で講師としてメッセージを語ってもらう(校舎改築工事の方を講師招聘した事例もあります。)

## 【保護者に聞きました】

(1) 道徳の教科化について知っていますか。

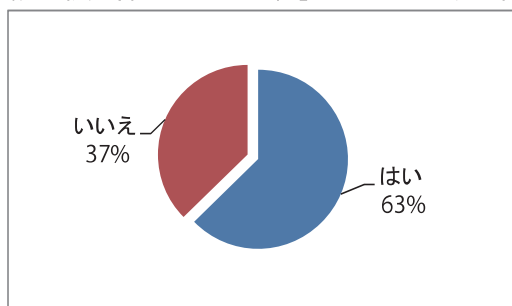


◆(1), (2)から約6割の保護者が「道徳の教科化」と「私たちの道徳」について「知っている」と回答しています。

◆現時点での保護者の関心は比較的高いと思われますが、「道徳の教科化」に向けて、保護者や地域住民に対して更に情報を発信していく必要があります。

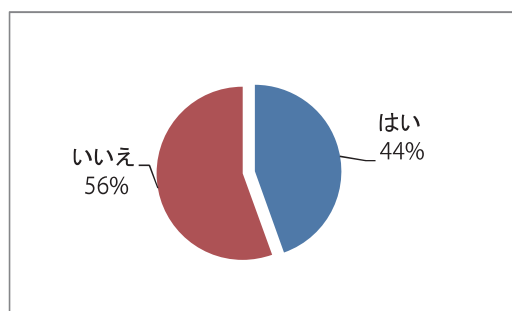


(2) 読み物資料「私たちの道徳」を知っていますか。

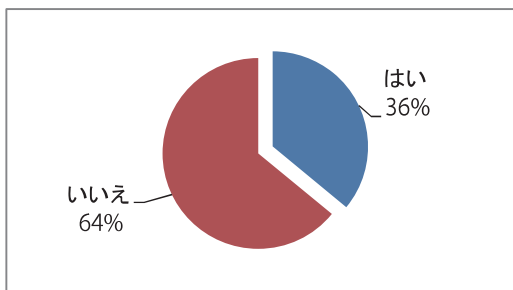


(3) (2)で「はい」と回答された方にお聞きします。

読み物資料「私たちの道徳」を読んだことがありますか。



(4) お子さんと「道徳の時間」の授業について話題にすることがありますか。



◆(1), (2), (3)では、保護者の道徳への関心が比較的高いことが分かりましたが、その一方で、「道徳の時間」の授業について話題にする割合が低いことが分かります。

◆これは親子で何を話題にしてよいかかわからないのかもしれませんが、保護者は道徳に関心はあるものの、家庭内や親子でどのように道徳と向き合っていけばよいかかわからない状態であることが浮かび上がっています。



それでは、保護者に「道徳の時間」の授業について、子どもと話をしてもらうにはどのような手立てがあるでしょうか。

Check!  
👉

★教職員の結果から「保護者や地域住民に道徳の時間を公開している」割合は高いので、こうした取組について、家庭内で道徳を話題にするきっかけにすることが可能です。

また、「道徳の時間はどうして必要だと思うか。」「どんなことを学んだのか。そのことをどう思うか。」「今の自分にどんなふうに役に立っていると思うか。」というような視点で親子で話題にすることも考えられます。

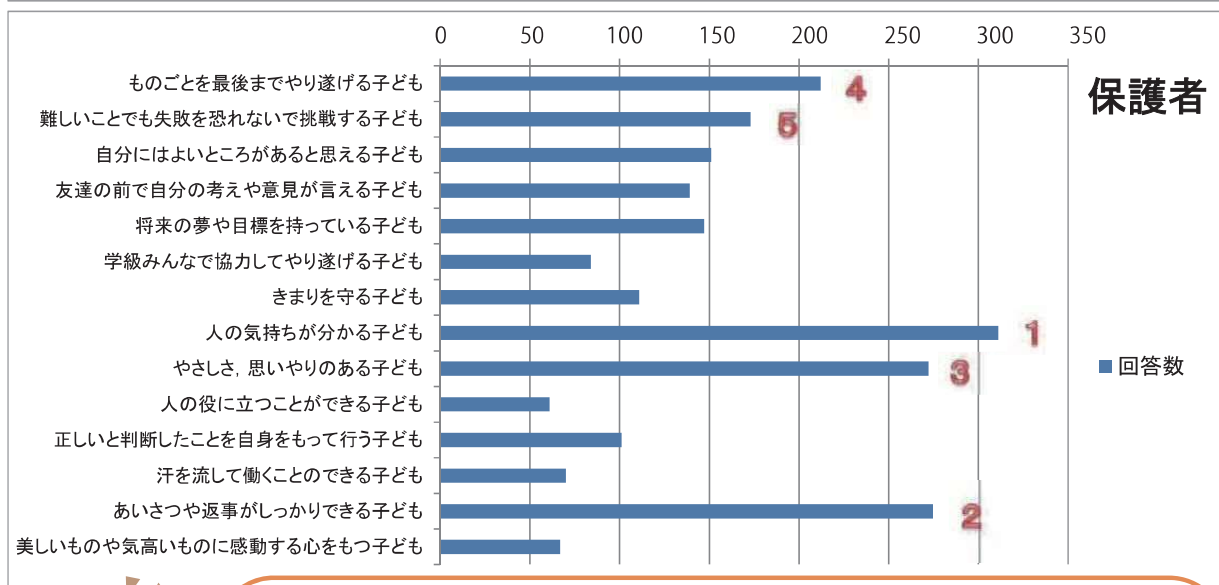
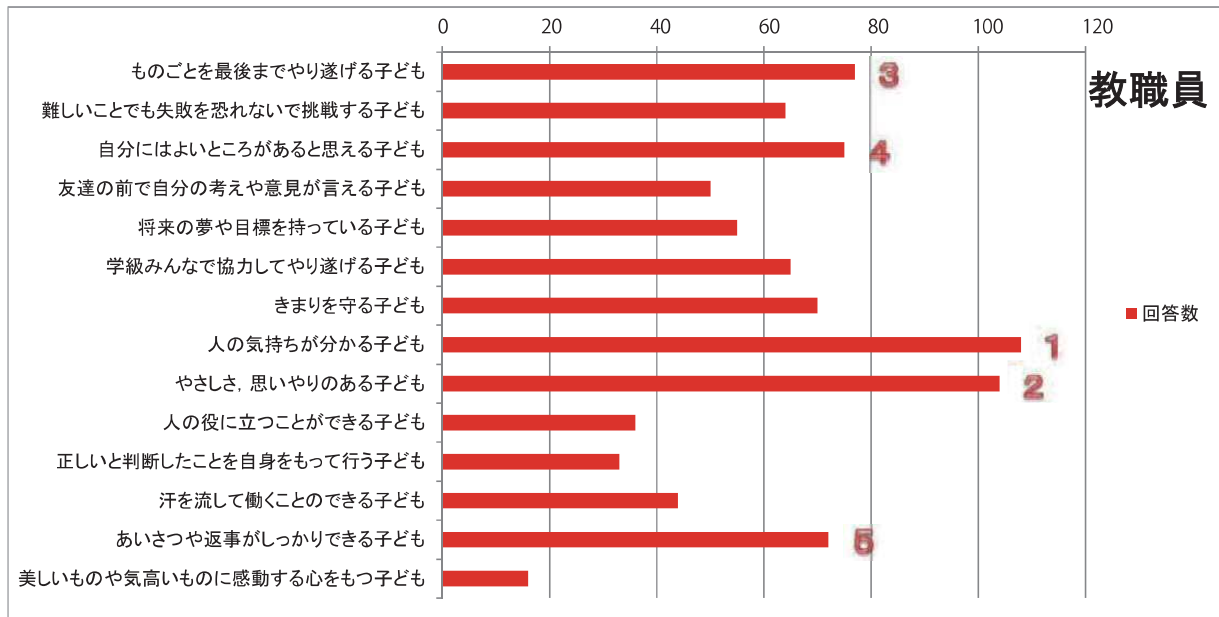
★学校においては、「道徳の時間」の授業公開を週報等で案内したり、校内に道徳コーナーを設置したりするなど、親子で話題にできるような仕掛けが必要だと思われます。

★道徳教育が変わろうとする今がチャンスです。道徳教育における家庭や地域社会との共通理解を深め、相互の連携を図りながら、児童生徒の豊かな心を育てていきましょう。

## 【教職員・保護者に聞きました】

鹿児島の子どもに、どんなことを期待していますか。

(5つ選ぶ形で回答。また、回答人数が異なるため回答数の横軸目盛りが異なります。)



Check!

- ◆鹿児島の子どもに期待することとして、多くの教職員と保護者が共通して選んだ項目は「ものごとを最後までやり遂げる」、「人の気持ちがわかる」、「やさしさ、思いやり」、「あいさつ・返事」でした。教職員が多く選んだ項目で、保護者はそれほど多く選んでいない項目は「自分のよいところ」、「きまりを守る」、「協力」という項目でした。「あいさつ・返事」は、教職員も保護者も共に期待している項目ですが、保護者の方が重要視していることが分かります。
- ◆教職員と保護者という立場の違いによって、子どもに期待するところに違いがあるという面が浮き彫りになっています。
- ◆今後の道徳教育で取り組むべき方向性や目指すべき子ども像が、このアンケートから明らかになったと考えられます。

★教師はとすれば、児童生徒を捉える視点が固定化されてしまう傾向があります。例えば、「学力の程度、元気、明るさ」など少数の視点で捉えてしまいがちです（保護者も同じかもしれません）。本アンケートの子ども像の項目は、「こういう視点で児童生徒を見るといいよ。」という視点を示しています。多くの視点で児童生徒を見つめることで、今まで気付かなかった「いいところ」が見えてくるでしょう。児童生徒を捉えるという活動に、本アンケート項目そのものを「児童生徒を捉える視点」として有効活用することが考えられます。